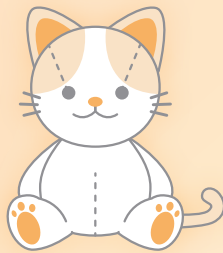




八尾市市民後見人 活動記録集



笑顔とともに寄り添う

C さま

平成29年度バンク登録【第3期生】
受任期間：平成30年7月～令和3年11月

「市民後見人」活動記録

C 著

1. 市民後見人養成講座の受講の動機

動機となりましたのは、新聞で「市民後見人」との文字を見た時から関心がありました。その後、案内チラシを見てオリエンテーションを受け養成講座を受けました。長いなあと思う講座の受講期間は途中で挫折しそうになる連続でしたが、社協の方の励ましもあり「市民後見人バンク」の登録へこぎつけました。

1 年余り過ぎて（平成 30 年 7 月）市民後見人を受任しました。養成講座で勉強したことを覚えているか不安な気持ちでした。

（家庭裁判所への書類は初回から死後事務迄、社協の担当者に教えてもらい感謝です）

2. ご本人の概要（居所・状態）

本人に、初めて会った時は親戚のように思えて、お姉さんのように接していかうと思いました。1 年前からサービス付き高齢者住宅に入居していて、アルツハイマー型認知症で要介護認定 2 の方でした。

その当時は身体の状態は良くて自由に歩行し食事は自力でほぼ完食でした。会話はユーモアも交えて楽しく話されますが、次の面会の時には覚えていません。隣接するデイサービスは、週 3 回利用していました。

身寄りの方は無いとのことでした。年金と一部の生活保護費を受給していました。

3. 活動の内容

本人と会うのは週 1 回で、その時は職員に声をかけ普段の生活や様子を聞きます。又気がつけば靴下が左右違っています。服が汚れているので着替えさせてもらえますか？等を伝えてきました。

本人は会うたび「どちらさまですか？」と笑顔で聞いてくれます。帰る時「お茶、出さずにごめんね」と言ってくれることも有りました。

「あんたは太っていいねえ肉がいっぱい有るわ」と私の太ももを叩きながら「私は骨皮スジエモン！ 痩せてるから誰も振り向かんわ」とユーモアのある方です。スマホで写真を撮り見せると、自分の顔を「お母さんや」と言いました。図書館で借りた「昭和の写真集」を見てもらおうと思い出して、「お母さんは小さいけど、よう働く人で子どもようさん産んだわ。お父さんは男前。お姉さんに会いたい」と話してくれて、本人の状況がわかりました。また家では猫を飼っていて白い猫は自分になつてかわいかったと話してくれました。折り紙を渡すと、「ピンク色が好き。赤は彼岸花やなあ」と話は弾みますが、色紙を折ってみる気はなしです。塗り絵は綺麗に塗っていました。部屋に無かった机やイスを聞くと「欲しい」とのことで社協の方や専門相談で相談して用意しました。机の上に 100 円玉、10 円玉を並べて「貧乏やわ」としょんぼりしていました。面会の時「お父さんは男前やってんねえ」と言うと嬉しそうに独り言も有りますがたくさん話してくれました。

デイサービスでは簡単な体操をしたり、クイズに答えたり、カラオケで美空ひばり等を凄く上手に歌っていました。本人の得意なこともわかり、これで楽しく暮らしていけると思っていた年末年始に2回転倒しました。職員から「CTで異常なしです」と連絡が有りました。

しかし2月に急に要介護5となり全身は脱力状態で瞼は閉じたままで返事は無い状態でした。ケアマネージャーに関係者会議を取ってもらい「新・ケアプラン」を作成してもらいました。往診が無いので病院で診察を受けて医師から「急速に右脳、海馬部分が大きく空洞となっている。栄養不足や水分不足が考えられる。もうマイクの意味が解らない、本能のみの状態です。介護の目が行き届く施設に変えたらどうか？（命に関わる）」との診断を聞きました。

社協の方やケアマネージャーと相談し申し込みしていた特養施設の入所が決まり、家庭裁判所へ書類を郵送し認可がおりて特養に移りました。

玄関ロビーのおひな様飾りの前で到着記念の写真を撮る時、パッチリ目を開けてくれ驚きました。新しい施設に移ったことが解っていると思いました。

職員の人たちに本人に声をかけて欲しいと頼んできました。数日後に「ここに来て良かったわ、声をかけてくれるし、ありがとう」と言葉を出したので、ケアマネジャーと喜びました。カゼをひいて体調が後退した時もありましたが前の施設の薬は要らない状態でした。

全介助で車椅子生活ですが少し感情を取り戻して「お世話になります、ありがとう」と言えるようになり看護師、職員と仲の良い関係でした。

本人は左手にスプーンを持ち自力で食べる事ができる日が有りました。

少しずつ回復の兆しがありましたので以前のようにカラオケを歌って欲しいと思い、面会のたびに「ご飯をたくさん食べて体力がついたらカラオケ店に行きましょうね」と言う嬉しそうに頼いていました。ついに本人と約束を確認してきた目標のカラオケ店に出かけました。

薄化粧した本人は、介護タクシーから景色を眺めながら「お待たせしたねえ」と言いました。本人はマイクの意味が解らない状態で歌いませんが、私の歌には「そこは低く！そこは高く歌うのに！」と音痴だと言っているのをヘルパーさんと大笑いしました。以前に医師から「マイクの意味が解らない状態です」と言われたことを思い出しました。でも残っている能力がわかり私の音痴が役に立ちました。

帰りの介護タクシーの中で「面白かったわぁ」と笑顔で言ってくれ、とても嬉しかったです。

令和 2 年夏、本人の視線が右方向に向いていて診察を受けた時、癌がみつかりました。特養のホームドクター・看護師・ケアマネージャー・職員と社協・市役所の皆さんと何度も何度も会議を重ねた結果「見守る」ことになりました。とても複雑なおもいでした。

ケアマネージャーにお願いして、リハビリマッサージとベッドで音楽をかけてもらうことにしました。

コロナ禍でテレビ電話の面会が続きました。テレビ電話で本人が痩せているのか身体が車椅子の上で横に傾いていることがわかりました。家庭裁判所の許可があり別注の車椅子を注文しました。この車椅子は身体が楽そうで本人のためになったと思います。

令和 3 年 11 月 11 日 本人は、寝ている間に亡くなりました。プレゼントしてきた、ぬいぐるみの白いネコやブタさん、一緒に写してきた写真等も入れて、心こもるお見送りをしました。約 3 年半の活動でした。その後に死後事務を始めました。

4. やりがいを含めた感想

後見人活動は手探り状態のまま、目まぐるしく終了しました。

身寄りの無い認知症の被後見人に、もし市民後見人が就いていなかったら、寝たきりで会話する機会も少なく、医療を受ける機会も少ない状態になることは十分に考えられますので、微力ですがお役に立てたことに感謝しております。





社協職員よりひとこと

いつもフレンドリーに接して下さるCさん。
被後見人さんにも施設職員さんにも優しくフレンドリーに
接して下さり、被後見人さんを実の家族のように
そばで支えてくださいました。
これからも地域の活動の中で、どうぞよろしくお願いします。

